



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2002.12月号

博物館ホームページにどうぞ！

横浜博物館トップページ Microsoft Internet Explorer
アシスト ブラウザ カーソル 小型 ブラウザ ヘルプ
検索 ホーム お気に入り フォルダ ファルダ
http://www.hiratsukamuseum.jp/hmweb/index.htm
横浜市博物館公式ページ

博物館のホームページをご覧になったことがありますか？一昨年の7月に始まったのですが、徐々に充実をはかり、現在では毎月十数ページが新しく付け加わっています。どんなコンテンツがあるのか、ご紹介しましょう。

- ・イベント情報／参加者の募集などはこのページで。広報ひらつかと同じ内容です。
- ・博物館日記／館の日頃の活動のスナップを紹介するページです。ふだんは見られない裏方のようすも取り上げています。
- ・虹ヶ浜から／漂着物を拾う会のページ。毎月の発見や漂着物に関する情報。
- ・Yellow Tail／水辺の楽校生きもの調べの会のページ。馬入の相模川のようす、活動風景、見つかった動植物の話題が満載です。
- ・身近な星空／季節ごとの星座や惑星のみどころを紹介するページ。将来的には定期更新の計画があります。
- ・君も自然探偵／当初から続いているページ。季節ごとの自然観察のポイントを紹介しています。バックナンバーを見ていくと、動植物のいろいろな話題が見つかります。
- ・刊行物案内／博物館で出した本の一覧です。価格や入手方法も出ています。研究報告誌である「自然と文化」については目次も掲載してあります。

★他にも特別展やプラネタリウムの新番組、展示室の案内、年間会員制のグループ活動の紹介など盛りだくさんの内容です。英語のページもありますのでお役立てください。

★公募写真展については、過去5回の優秀賞作品が閲覧できます。

★更新は毎月初旬です。4日か5日頃に見ていただければ、確実に新しくなっています。あなたのパソコンでもぜひ「お気に入り」に加えて、毎月のぞいてみてください。

平塚市博物館公式ページ

博物館日記 2002年11月

●春に備えて
博物館では、もう来春の準備が始まっています。2月1日から11日まで開催される「博物館まつり」実行委員会が開かれ、各グループが展示と発表の計画にとりかかっています。また、5月に開催される「公募写真展」の作品募集が始まり、既に数十点の作品が寄せられました。

・11/1 寄贈品コーナー
火山からの噴出物(11/28まで)

・11/1 常設展示室展示替えの打ち合わせ

・11/8 プラネで初めての星空コンサート
(出演:アクアマリンのお二人)

・11/10 古代食の体験
(古代遺跡を探す会分科会)

・11/16 自然観察ゼミナール
サギのねぐら(平塚大橋)

・11/20 インドネシアとネバールの研修生 茶室で日本体験

11/13から約10日間、インドネシアとネバールの学生が、研修のために平塚に滞在し、美術館を中心とした活動を体験していました。その1日、展示解説ボランティアの会の協力で、博物館の茶室を使っての体験をしました。

2003年の天文現象

12月7日～2月2日

来年1年間に起こるさまざまな天文現象から、平塚で見られる天文現象や、とりわけめずらしい現象などを、プラネタリウムのシミュレーション機能をフルに活用して紹介します。
このコーナーではその中から、主な現象をご紹介します。

5月7日 水星の太陽面経過

太陽、水星、地球が1直線上に並んで、太陽の表面を水星が通るように見える現象です。

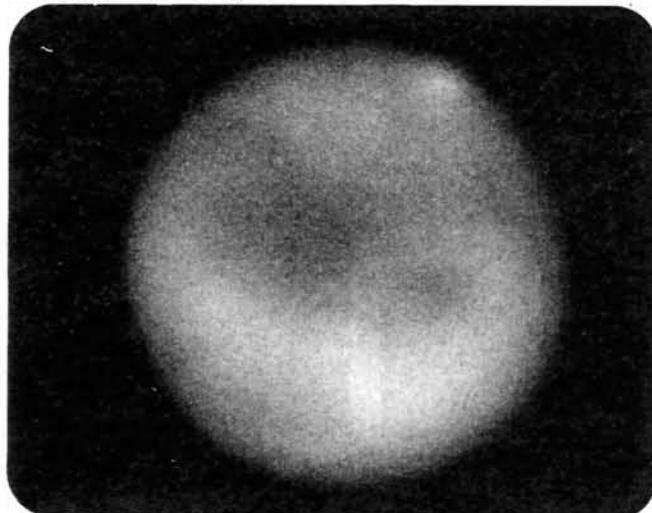
平塚では、1993年11月に見られて以来の現象で、これは日本全国でほぼ同時に見られます。望遠鏡で太陽面を観察すると、水星が真っ黒な円盤として太陽面を移動していく様子が見られます。経過の開始は14時12分ごろです。経過の終了は日没後となり平塚からは見られません。

夏から秋の火星大接近

来年は火星の大接近が起こります。

火星は地球のすぐ外側を回る惑星で、地球とは2年2ヶ月毎に接近を起こします。

接近する時期によっては、地球との距離が6000万キロから1億キロと変動しますが、2003年の接近は5600万キロと、まれにみる大接近となります。再接近は8月27日ですが、その前後1ヶ月ほどが火星観察の好機となります。明るさは-3等近くになりますから、夏から秋にかけて、南東の空にオレンジ色に輝く姿を見ることが出来ます。望遠鏡で見ると、火星はちょうど南半球を地球に向かって、南極冠（なんきよくかん）と呼ぶ白い地域がくっきりと見えるはずです。

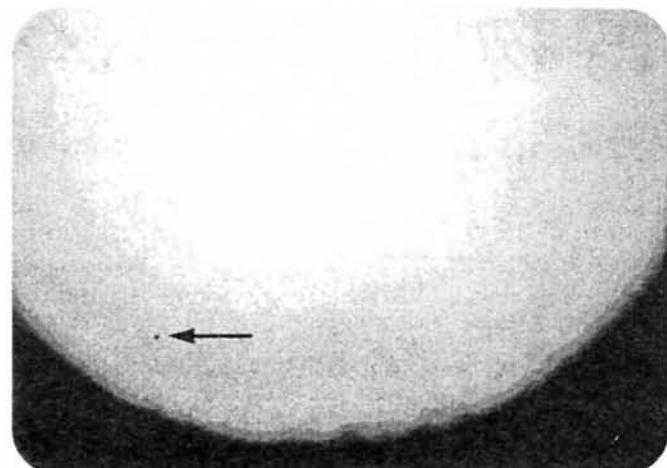


1988年の大接近の火星

流星群の活動

りゅう座イオタ流星群

年間三大流星群（しぶんぎ座流星群、ペルセウス座流星群、ふたご座流星群）のひとつで、「しぶんぎ座流星群」とも呼ばれます。



水星の日面経過（黒い小さな点）1986年11月

極大は1月4日の明け方前後ですが、その継続時間が短いため、極大時刻が日本の夜にうまく当たるかどうかで実際に見ることのできる流星が大きく変わります。2003年は月が新月にあたり、良いのですが、極大時刻の条件が朝8時から14時と予報されています。明け方近くに流れ星が多く見られるかもしれません。

ペルセウス座流星群

8月12日頃を中心に活動する流星群で、早く、明るい流星が見られる特徴があります。

2003年は、満月の月が一晩中出ているので、条件は悪いのですが、明るい流星が多いので空気の澄んだ山の上などで見ると、たくさん見られるでしょう。

ふたご座流星群

12月14日前後を中心に活動する流星群です。ゆっくりと流れる流星が数多く見られるのが特徴です。2003年は下弦の月が出ているので、良い条件とはいえませんが、月が高く昇る夜半までに多く見られるかもしれません。

ここ数年、話題を集めてきました、しし座流星群は、テンペルタットル彗星が遠く離れるにつれ、流星数が減少していきます。しかし、まだまだ明るい流星を見るチャンスはありますので、注目していてください。

中秋の名月

2003年は9月11日が満月ですが、旧暦8月15日にあたり、中秋の名月となります。例年よりだいぶはやい名月となります。

武田辰平氏撮影キノコ写真展

期間 11月30日～1月5日

平塚市博物館には、多数のキノコ類の標本や写真が収蔵されています。これは、30年にわたって活動を続けている「神奈川キノコの会」の協力によるものです。キノコの会では、10年ほど春から秋まで毎月平塚市内で調査の機会を設け、採集されたキノコを標本として寄贈してくださっています。その点数は、約1000種類、5000点弱にのぼっており、1997年には目録も刊行されています。近年では、真空凍結乾燥機を利用した原型をとどめた標本作りにも取り組まれています。標本は、

研究機関からの閲覧を求められることもあり、今までにつくばの森林総合研究所や、滋賀大学などに貸し出しを行いました。

また、キノコの会を通じて、全国のキノコ同好会や愛好者とのパイプもできてきてています。今回、写真を展示する武田辰平氏もその一人で、新潟県にお住まいの方です。長年とりためた写真を、多くの人に利用してもらいたいという趣旨でお預け頂きました。



タマゴタケ（武田辰平氏撮影）

「平塚市考古資料50選」のアンケート結果報告

夏期特別展も終わって早3ヶ月を経過しました。期間中、多くの皆様にアンケートのご協力をいただきながら、報告が遅れて申し訳ないと思います。アンケートは「あなたが選ぶベスト5」と題し、展示品50の中から自分の好きな資料を5つ選んでいただきました。用紙には男女・住所・年齢と選んだ理由を書いていただき集計した結果、次の資料が選ばれました。

- 第1位・・・三角縁四神二獸鏡（古墳時代・真土大塚山古墳）
- 第2位・・・有孔鍔付土器（縄文時代・上ノ入遺跡）
- 第3位・・・鳥帽子（鎌倉時代・坪ノ内遺跡）
- 第4位・・・ナイフ型石器（旧石器時代・原口遺跡）
- 第5位・・・炭化米・おにぎり状炭化米（大久保・北金目塚越遺跡・弥生時代）

この順位は次のようなことが考えられます。第1・2位の資料は平塚を代表するもので全国的にも知られているからと考えます。第3位の鳥帽子は時代劇等でおなじみのものですが、実際に生で見られたことに感激したようです。第4位のナイフは黒く輝いて鋭いところが小学生に大変人気があったようです。第5位は普段食べている「おにぎり」が弥生時代からあったことに大変驚いているようです。ご協力有り難うございました。



三角縁四神二獸鏡（古墳時代・真土大塚山古墳）

博物館カレンダー

2002年12月の行事

1日	☆	寄贈品コーナー「きのこ写真展」(～1月5日)	展示室
		地質調査会「大山亜層群5」	野外
4水	○	民俗探訪会調査会「民間信仰調査」 プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	特研室 アトリエ室
5木		展示解説ボランティアの会	特研室
6金		古文書講読会	講堂
7土	☆	プラネタリウム「2003年の天文現象」(～2月2日)	アトリエ室
8日	○	民俗探訪会「研究発表会」 自然観察ゼミナール「鳥のねぐら」 水辺の楽校生きもの調べの会	講堂 野外 相模川
12木		石仏を調べる会	特研室
13金		古文書講読会	講堂
14土	◎	漂着物を拾う会 天体観察会「ふたご座流星群」(15日まで)	虹ヶ浜 函南
15日	◎	ろばたばなし 相模川の生い立ちを探る会「愛川層群と構造線」	展示室 清川村
18水		裏打ちの会 民俗探訪会調査会「民間信仰調査」 プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	科学室 特研室 アトリエ室
19木		展示解説ボランティアの会	特研室
20金		古文書講読会	講堂
21土		平塚の空襲と戦災を記録する会 地質調査会「読書会」 星を見る会「土星を見る」 天体観察会	特研室 科学室 屋上 屋上
22日	○	古代遺跡を探す会「東海道を歩く」 体験学習「お飾りを作ろう」	茅ヶ崎 講堂

第6回 平塚市博物館公募写真展／写真募集中

地域の姿を未来に伝えるため、その自然や文化についての写真を募集します。

●全体テーマ 「相模川流域の自然と文化」

相模川流域各地での人々の生活のようすや自然の姿を写した写真。(例えば、農業や漁業などの仕事のようす・祭り・年中行事・野鳥の生態・四季の草花・台風や地震などの自然災害・地形や地層・土地の変化など、博物館資料として活用できる写真。昔のようすを伝える古い写真も歓迎します。地域は桂川流域や山中湖まで含みます。)

●募集期間 平成14年11月1日～12月27日(必着)

●募集作品

①一般写真(銀塩写真)部門 ②デジカメ部門 ③シラサギ部門

※いずれも、キャビネ(または2L・A5判)相当サイズ。

※カラー・モノクロのいずれも可。組写真も可。

●応募方法

応募票(博物館受付で配布)に所定事項を記入し、作品に添えて博物館に郵送又は持参してください。一人で何点応募されてもかまいません。応募作品の返却はいたしません。

●賞 全体で 優秀賞10点 入選20点(それぞれ賞品を贈呈します。)

●版権 入賞入選作品の版権は平塚市博物館に属します。

※くわしくは、博物館受付・公民館などで配布している「公募写真展要項」または、博物館のホームページをごらんください。

●博物館は、12月29日から1月3日まで休館します。

2003年1月の行事

8水	☆	寄贈品コーナー「2003年の天文現象」(～1月30日)	展示室
9木		石仏を調べる会	特研室
10金		古文書講読会	講堂
11土	◎	漂着物を拾う会	虹ヶ浜
12日		相模川の生い立ちを探る会「松田山と国府津松田断層」	松田町
15水		裏打ちの会 民俗探訪会調査会「民間信仰調査」 プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	科学室 野外 アトリエ室
16木		展示解説ボランティアの会	特研室
17金		古文書講読会	講堂
18土		地質調査会「大山亜層群6」	科学室
19日	◎	ろばたばなし 民俗探訪会「博物館まつり準備」 古代遺跡を探す会 水辺の楽校生きもの調べの会	講堂 展示室 土沢 相模川
23木		石仏を調べる会	特研室
24金		古文書講読会	講堂
25土		平塚の空襲と戦災を記録する会 天体観察会「スタークッキング 調査」	特研室 屋上

☆：展示(無料)・プラネタリウム(観覧料) ○：申込制

◎：自由参加 無印：年間会員制

☆寄贈品コーナー「きのこ写真展」

武田辰平氏寄贈のきのこ類の写真を紹介します。

会期：11月30日(土)～1月5日(日)

☆プラネタリウム

「2003年の天文現象」

2003年は火星大接近、水星の日面通過など、興味深い天文現象が見られます。これらの現象をプラネタリウムのシミュレーション機能を使って解説します。

期間：12月7日(土)～2月2日(日)

投影日：土日曜日の11時と14時

○体験学習「お飾りを作ろう」

日時：12月22日(日) 10時～15時

場所：博物館講堂

定員：30名 材料代：100円

申込：往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、12月13日までに博物館へ申し込む。

◎漂着物を拾う会

海岸に流れ着いた物から、来歴を推理したり、自然環境を考えたりします。

日時：12月14日(土) 9時30分～11時

場所：平塚虹ヶ浜海岸

参加：自由(ただし、初めての方は往復はがきで申し込むこと)

◎ろばたばなし

民家の団炉裏端で昔話を聞いてみませんか。

日時：12月15日(日) (1)13時20分～(2)15時～

場所：展示室民家 参加：自由

◎星を見る会「土星を見よう」

冬の星座をながめたり、土星を望遠鏡を使って観察します。

日時：12月21日(土) 18時30分～20時

場所：博物館 参加：自由